

国内研修報告書（島根県隠岐諸島島前地区）

私は昨年の夏休みに続き、国内研修制度を利用させていただき島根県隠岐諸島の島前地区を訪問させていただきました。私自身は昨年の研修を含めて3度目の島前訪問ということもあり、今年の島前合宿では規格の代表として運営側に立ち研修に臨みました。今回は研修を通して学んだことや感じたことの多くが、運営として参加することによって得られたものだと感じています。

十数名の参加者を募り自分の深く関わっていない地域に訪問するにおいて、準備期間というのは非常に重要であり難しいものであると改めて感じました。今回の研修には、今まで先頭に立ち島前合宿を運営してくださっていた島前出身の先輩が参加することができず、訪問先との連絡ややり取りにおいても自分たちで1から始める必要がありました。主な企画の1つに、活動拠点である西ノ島の中学校との交流がありました。早い時期からやり取りを進めていたものの、自分たちの準備不足等もあり研修直前になるまで詳細の決定を長引かせてしまったということもありました。中学校での交流授業の内容は、中学生の「生き方学習」という授業の一環として、大学生が自分のこれまでの経験や大学生活などに関して話し、そこから中学生自身に自分の将来やこの先の姿について考えてもらおうというものでした。この交流授業のための事前準備も大学生側の個々人が時間をかけ、中学生に伝えようと思うことを考えることができたのではないかと思います。この活動を通して大学生自身が自分のこれまでの人生や、自分の考え方などを改めて見つけることにより、自分自身に関する新たな発見をすることができたらよい結果だと考えています。実際に活動を通しての感想は、それぞれが少人数のグループ分けになったにもかかわらず、中学生としっかりコミュニケーションをとることができていたのではないかと思います。自分自身は、中学生からの質問に答えるばかりで、話したいと考えていたことを伝えきれずに終わってしまったかなと思う点がありました。知りたいことに応えてあげることができたのはよかったものの、これを伝えるのは自分以外の人にもできてしまうなと思ってしまい少し残念でした。交流授業全体を通して、中学生側には良い影響を与えることができるものになったかと思いますが、肝心の大学生側が具体的に何を達成することができたのか、また一人ひとりが何を目標にし、それを達成することができたのか課題になったかと思っています。運営として明確に意図を伝えきれていなかったことも原因であり反省すべき点であるといえます。

中学校との交流授業が終わった後に、西ノ島内において放牧を営んでいる現地の方を訪問させていただき、牛舎の見学や西ノ島における畜産の変化などについて詳しくお話を伺うことができました。牛舎での説明や質問が終わった後には、牛と馬が放牧されている放牧地に実際に連れて行っていただきことができ、目の前を通る姿などを見ることができま

した。人に慣れているためか警戒されることもなく近づくことができたのには驚きました。今回このように地域の方を訪問させていただき島の産業に触れることができたことはよかったと感じます。しかしながら反省すべき点もいくつかありました。まず事前の準備に時間をかけていなかったことです。自分たちの専門外である畜産という内容でお話しただくにもかかわらず、参加者一人一人に前段階での調べ学習を徹底させていませんでした。実際お話を聞く中でいくつか質問をすることができましたが、数名のメンバーが質問をするにとどまってしまいそれぞれの理解を深めるには至らなかったのではないかと感じました。事前の準備の段階では他の規格の学習に時間を割いてしまい、地域の方からお話を伺うにもかかわらず失礼な形になってしまったのではないかと思い改善すべきと感じました。運営として企画を早い段階で決定し、参加者には十分に準備をしてもらったうえで臨む必要があると改めて感じさせられました。またあるメンバーから、島の産業の中でも自分たちの学んでいる分野である福祉に関わる仕事への訪問もよかったのではないかと意見をもらうことができました。普段自分たちの生活している環境とは違う環境における福祉活動について聞くことも確かに良い経験だなと感じたので、ぜひ次回に生かしていきたいなと思いました。

学習面での大きな企画の最後は、西ノ島町役場の地域振興課の職員の方との交流会でした。西ノ島町も他の地域と同様に少子高齢化が進行していく中で、どのように町を維持させていくか、またそのためにどのような活動が行われているかについて多くの質問を通して伺うことができました。企画を考えている中で、地域の状況を知るなら行政と直接かわることが一番効果的という意見が出たこともそうですが、参加者の多くが行政との意見交換をしたいと言ってくれたことが決め手になりました。初めに簡単に西ノ島の現状について説明していただいた後は、多くの時間を使わせていただくことができました。それぞれの参加者が事前に考えていた質問や、島前で数日間過ごした中で疑問に思ったことなどを素直に質問し行政の方も多くのことに答えてくださいました。以前西ノ島を訪問した時にも交流をさせていただいた方もいらっしや、回数を重ねることで人同士のつながりがつよくなっていくことも実感できました。

島前合宿をやる中で学習面の企画はもちろんながら、観光や普段触れることのできない自然に触れることは非常に良い体験になります。島前地域にある海士町では、毎年8月に伝統のキンニャモニャ祭りが行われています。今年も島前合宿の日程をキンニャモニャ祭りの開催に合わせることでできたので全員でお祭りに参加しました。キンニャモニャ祭りは、しゃもじを持って歌に合わせて踊るという非常に独特なお祭りで、毎年本土からも多くの人に参加しに訪れている大きなお祭りです。このキンニャモニャ踊りに参加予約をしておらず、踊りに参加しないつもりで見学に行きました。しかし、飛び入り参加も受け付けていたので、練習をしていなかったにもかかわらず初めて見た1年生も一緒に踊ることができました。キンニャモニャ祭りの最後には花火が打ち上げられるのですが、港から見ている観客の目の前で上がるので迫力が東京の花火大会とは段違いでした。去年見させて

もらった時よりもさらにグレードアップしていて本当に感動しました。

島前合宿を運営するにあたって、参加者に絶対に体験してほしいことがありました。それは、島の展望所から見ることのできる満天の星空に触れることです。自分たちが普段生活している環境とは全く違う自然を多く見ることができますが、自分が体験した中で最も素晴らしいことがこの星空を見ることでした。私たちが島にいる間天気が良くない日が多かったのですが、星を見に行く決めていた日だけはきれいに晴れてくれました。現地の人ですら、今日の星はすごいとおっしゃっていたのでさらに期待が膨らんだこともあります。プラネタリウムでしか見たことのない空を生で見ることでできただけでなく、参加者みんなが感動したと言ってくれて、見せることができ本当に良かったと感じました。

島前合宿を成功させることは自分たち運営の力だけでは絶対に無理だったと感じます。今まで先輩方が築いてきた島の方々との関係や、私たちが昨年の合宿や冬に訪れたときにお世話になった方々の優しさや手助けによって成り立っていたと言えます。私自身は、島の方に迷惑をかけてしまうだろうと思い頼るつもりはありませんでした。しかし、島の方は快く積極的に私たちを助けてくれて、もっと頼りなさいと言ってくれるほどでした。だれかに頼ることは必要はことで、そこから信頼関係は深まっていくのかと気づかされたような気がしました。今年もこの島前合宿に関わることで、多くのことを学び自分を成長させることができたかと思います。この国内研修の機会と人と人のつながりに感謝です。